

函館市医療・介護連携推進協議会  
多職種連携研修作業部会 第17回会議

日時：令和5年3月3日（金）19：00～

場所：函館市医師会病院 5階講堂

【次第】

1 開 会

2 議 事

○報告事項（資料1）

- 1, 令和4年度 多職種連携研修計画 実施報告（資料2・6・7・8）
- 2, センターホームページ「コラム」の掲載について
- 3, 研修情報の一元化と提供について（資料3）

○協議事項

- 1, 令和5年度 多職種連携研修計画（案）（資料4・5）

3 その他

4 閉 会

【配付資料】

資料1 報告事項

資料2 令和4年度 多職種連携研修計画実績表

資料3 ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和4年4月～令和5年2月）

資料4 協議事項

資料5 令和5年度 多職種連携研修計画（案）

資料6 令和4年度 医療関係者向け研修 分析・考察

資料7 令和4年度 介護関係者向け研修 分析・考察

資料8 第7回 函館市医療・介護連携多職種研修会 分析・考察

**函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会**  
**第17回会議 出席者名簿**

※★…部会長および副部会長 ○…幹事

(敬称略)

分野	所属団体	氏名	勤務先等
医療	公益社団法人 函館市医師会	○幹事 佐藤 静	函館市医療・介護連携支援センター
	一般社団法人 函館歯科医師会	川村 曜補	カワムラ歯科クリニック
	一般社団法人 函館薬剤師会	★副部会長 水越 英通	(株)はこだて調剤薬局昭和店
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	鹿角 悼司	特定医療法人 富田病院
	道南在宅ケア研究会	川口 篤也 ※欠席	医療法人道南勤労者医療協会 函館稜北病院 副院長
	函館地域医療連携実務者協議会	船山 俊介 ※欠席	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 法人内・法人外連携推進担当課長
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	阿部 綾子	医療法人社団 函館脳神経外科病院
	北海道柔道整復師会函館ブロック	山本 康文	山本整骨院
	函館鍼灸マッサージ師連絡協議会	益井 基	益井東洋治療院
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	渡部 良仁	居宅介護支援事業所 アニー
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	京谷 佳子 ※欠席	函館市地域包括支援センター ゆのかわ
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会	★部会長 寺田 昌弘	社会医療法人仁生会 西堀病院
	道南訪問看護ステーション連絡協議会	白川 直子 ※欠席	社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院 在宅療養支援室 訪問看護係
	道南地区老人福祉施設協議会	齋藤 禎史	特別養護老人ホーム シンフォニー

## ○報告事項

## 1. 令和4年度 多職種連携研修計画 実施報告（資料2）

## (1) 相互理解の促進

## ①医療関係者向け研修会（動画公開）

テ ー マ：「30分でわかる福祉用具の『あれこれ!』」

講 師：株式会社 ひより屋 福祉用具貸与事業所 ひより屋  
福祉用具専門相談員 角田 真一 様

・公開期間：令和4年7月11日～7月31日

・閲覧人数 407名 ・閲覧回数 250回

## ②介護関係者向け研修会（動画公開）

テ ー マ：「食べるということ～おいしく食べ続けるために～」

講 師：医療法人 道南勤労者医療協会 道南勤医協 函館稜北病院  
通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション稜北  
言語聴覚科主任 穴戸 加奈美 様

・公開期間：令和4年10月17日～11月13日

・閲覧人数 623名 ・閲覧回数 337回

## ③オープンカンファレンス

（函館オープンカンファレンス形式にて開催）

令和4年9月10日（土）

第7回函館市医療・介護連携多職種研修会

## ④研修会等コーディネート

・各関係団体窓口一覧の更新

（8月9日HP に更新内容掲載済み）

## ⑤その他

ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター作成動画研修の公開

（ア）「精神科を知ろう！～早期相談・早期受診のすすめ～」

講 師：なるかわ病院 相談室主任

医療ソーシャルワーカー 山村 哲 様

・公開期間：令和4年4月18日～5月15日

・閲覧人数 524名 ・閲覧回数 280回

（イ）「成年後見制度の基本を学ぼう！」

講 師：七飯町役場 福祉課地域包括支援係

社会福祉士 岡本 勉 様

・公開期間：令和4年12月1日～12月25日

・閲覧人数 528名 ・閲覧回数 211回

(ウ) 「地域包括ケアシステムにおける病院の機能と役割について」

講 師：国立病院機構 函館病院 相談支援室

医療ソーシャルワーカー 廣瀬 量平 様

・公開期間：令和5年1月23日～2月26日

・閲覧人数 726名 ・閲覧回数 266回

(2) 連携強化

①連携強化

・第7回函館市医療・介護連携多職種研修会

日 時：令和4年9月10日（土） 13：30～16：30

方 法：ウェブ開催 オープンカンファレンス形式

テーマ：8050問題の事例を通じ、多職種連携の必要性を考える

～知ろう！気づこう！繋がろう！！～

座 長：函館稜北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生

講 師：函館市地域包括支援センターゆのかわ

係長・保健師 京谷 佳子 様

居宅介護支援事業所すず音

管理者・主任介護支援専門員 手塚 仁美 様

相談支援事業所 一条

相談支援専門員 長谷川 隆明 様

デイサービスセンターももハウス

介護主任 山本 弥 様

対象者：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関係者

参加申し込み数：182名 当日参加人数：181名

②入退院支援

(ア) 「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催）

＊動画公開へ変更

・撮 影：令和5年1月30日

・公 開：令和5年3月予定

テーマ：「ここが知りたい！入退院時の医療・介護の連携」

～会えない！行けない！どうしていますか？～

座 長：函館市地域包括支援センター連絡協議会 保健師 福 島 久美子 様

講 師：函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 ケアマネジャー 高 橋 淳 史 様

一般社団法人 北海道MSW協会南支部 医療相談員 岩 城 朋 美 様

道南訪問看護ステーション連絡協議会 看護師 高 橋 陽 子 様

函館市地域医療連携実務者協議会 看護師 奥 山 ちどり 様

道南在宅ケア研究会 医療相談員 廣 瀬 量 平 様

(イ) 「入退院支援連携強化研修会(サマリー編)」(情報共有ツール作業部会主催)  
新型コロナウイルスの感染状況により、未開催

(ウ) その他

ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター作成動画研修の公開

○「はこだて医療・介護連携サマリー研修(動画)」

【講演】(テーマ)「おもいやりのあられる地域のために」

講 師：北美原クリニック 岡田 晋吾 先生

【説明】(テーマ)「はこだて医療・介護連携サマリーの説明」

(サマリー、サマリーマニュアル等、活用方法のアレンジ等)

(説明者) 情報共有ツール作業部会メンバー、

函館市医療・介護連携支援センター

・公開期間：令和4年5月23日～6月19日

・閲覧人数 438名 ・閲覧回数 256回

③急変時対応(急変時対応分科会実務者会議 主催)

「急変時対応研修会」 \*動画公開へ変更

・撮 影：令和5年2月3日

・公 開：令和5年3月予定

テーマ：「急変時対応 それぞれの立場で思うあれこれ」

～急変の一つ手前でできること～

座 長：こにし内科・心臓血管クリニック 院長 小西 宏明 先生

講 師：○施設関係者の立場から

演者： 関 雅之施設長(地域密着型特定施設ケアホームくら 施設長)

「急変時対応 ～いつもと違う！その気付き～」

○在宅関係者の立場から

演者： 山本 裕美子看護師 (函館訪問看護ステーション 所長)

「急変時対応 ～訪問看護における急変の一つ手前でできること～」

○医師の立場から

演者： 小西 宏明先生 (こにし内科・心臓血管クリニック 院長)

「急変の一つ手前でできること

～救急搬送が必要になる前に気付ける視点、その症状～」

(3) 多職種連携の専門性の向上

函館市における多職種連携への理解の促進(出張講座の実施)

(4) 人材育成

センター主催研修会への見学参加 (各医療・介護系の学校への案内)

2. センターホームページ「コラム」の掲載について

(1)「お口の困りごと電話で相談してください! (道南圏域在宅歯科医療連携室)」

道南圏域在宅歯科医療連携室 相談員 歯科衛生士 澤谷 幸絵 様

令和4年10月3日掲載

(2)「食と栄養からの支援活動」

北海道栄養士会函館支部 支部長 木幡 恵子 様

令和4年12月6日掲載

(3)「認定栄養ケア・ステーションについて」

公益社団法人 日本栄養士会

北美原認定栄養ケア・ステーション 横田 早知 様

令和5年2月15日掲載

3. 研修情報一元化と提供について (資料3)

令和4年4月~令和5年2月掲載分

他団体主催・共催

21件

ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

主催・共催4件

函館市医療・介護連携支援センター

主催・共催4件

函館市医療・介護連携支援センター, ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター

共催1件

【 令和4年度 多職種連携研修計画実績表 】

目的（テーマ）	内容	形式				定員	時期
		規模（会場）	形態	対象者	レベル		
(1) 相互理解の促進	① 医療関係者向け研修会 「30分でわかる福祉用具の『あれこれ!』」 講師：株式会社 ひより屋 福祉用具貸与事業所 ひより屋 福祉用具専門相談員 角田 真一 様	動画研修	動画にて講義	医療関係者 (介護関係者も閲覧可能)	初級～中級	100名程度	7月11日～7月31日 まで公開（終了）
	介護関係者 (医療関係者も閲覧可能)			10月17日～11月13日 まで公開（終了）			
	③ オープンカンファレンス	中規模	対話体験（事例報告）	医療・介護関係者	初級～上級	100名程度	9月10日（終了）
	④ 研修会等コーディネート 各関係団体窓口一覧の内容変更の有無を確認						8月9日更新済み
	⑤その他 ・ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター作成動画研修の公開 (ア)「精神科を知ろう!～早期相談・早期受診のすすめ～」 講師：なるかわ病院 相談室主任 医療ソーシャルワーカー 山村 哲 様	動画研修	動画にて講義	医療・介護関係者	初級～中級	100名程度	4月18日～5月15日 まで公開（終了）
	(イ)「成年後見制度の基本を学ぼう!」 講師：七飯町役場 福祉課地域包括支援係 社会福祉士 岡本 勉 様						12月1日～12月25日 まで公開（終了）
(ウ)「地域包括ケアシステムにおける病院の機能と役割について」 講師：国立病院機構 函館病院 相談支援室 医療ソーシャルワーカー 廣瀬 量平 様	1月23日～2月26日 まで公開						
(2) 連携強化	①連携強化 ・第7回函館市医療・介護連携多職種研修会 「8050問題の事例を通じ、多職種連携の必要性を考える ～知ろう! 気づこう! 繋がろう!!～」 座長：函館城北病院 副院長 総合診療科科長 川口 篤也 先生 講師：函館市地域包括支援センターゆのかわ 係長・保健師 京谷 佳子 様 居宅介護支援事業所すず音 管理者・主任介護支援専門員 手塚 仁美 様 社会福祉法人函館一条 相談支援事業所一条 相談支援専門員 長谷川 隆明 様 デイサービスセンターももハウス 介護主任 山本 弥 様	大規模	ハイブリッド開催 シンポジウム・GW	医療・介護関係者	中級～上級	230名程度	9月10日（終了）

(2) 連携強化	<p>②入退院支援</p> <p>(ア) 「入退院支援連携強化研修会(ガイド編)」(退院支援分科会主催)</p> <p>座長: 函館市地域包括支援センター連絡協議会 保健師 福島 久美子 様</p> <p>講師: 函館市居宅介護支援事業所連絡協議会 ケアマネジャー 高橋 淳史 様</p> <p>一般社団法人 北海道MSW協会南支部 医療相談員 岩城 朋美 様</p> <p>道南訪問看護ステーション連絡協議会 看護師 高橋 陽子 様</p> <p>函館地域医療連携実務者協議会 看護師 奥山 ちどり 様</p> <p>道南在宅ケア研究会 医療相談員 廣瀬 量平 様</p>	小規模	事例検討・GW	実務者	中級～上級	30名程度	(ア) 3月動画研修(予定)
	<p>(イ) 「入退院支援連携強化研修会(サマリー編)」(情報共有ツール作業部会主催)</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況により、未開催</p> <p>※各団体・機関との共催、退院支援分科会・情報共有ツール作業部会との協働</p>						(イ) 未開催
	<p>(ウ) その他</p> <p>・ほくと・ななえ 医療・介護連携支援センター作成動画研修の公開</p> <p>「はこだて医療・介護連携サマリー」の説明動画</p> <p>「おもいやりのあふれる地域のために」</p> <p>講師: 北美原クリニック 岡田 晋吾 先生</p> <p>「はこだて医療・介護連携サマリイの説明」</p> <p>説明者: 情報共有ツール作業部会メンバー</p> <p>函館市医療・介護連携支援センター</p>	動画研修	動画にて講義	医療・介護関係者	初級～中級		5月23日～6月19日 まで公開(終了)
	<p>③ 急変時対応(急変時対応分科会実務者会議主催)</p> <p>「急変時対応 それぞれの立場で思うあれこれ」～急変の一つ手前までできること～</p> <p>座長、講師: こにし内科・心臓血管クリニック院長 小西 宏明 先生</p> <p>講師: 地域密着型特定施設ケアホームくら施設長 関 雅之 様</p> <p>函館訪問看護ステーション所長 山本 裕美子 様</p>	中規模	シンポジウム	医療・介護関係者	中級～上級	100名程度	3月動画研修(予定)
(3) 多職種連携の専門性の向上	<p>函館市における多職種連携への理解の促進</p> <p>※各団体・各機関との共催</p>	小規模	座学講義 講師: センター職員	医療・介護関係者	初級～中級	30名程度	随時
(4) 人材育成	<p>センター主催研修会への見学参加</p> <p>※各医療・介護系の学校への案内</p>		動画にて講義	医療・介護学生 (教員)	未経験者	数名	随時

※ 新型コロナウイルスの状況等により、研修会の中止および開催時期、方法等が変更となっている場合があります。

## ホームページ上で掲載した研修情報一覧（令和4年4月～令和5年2月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月	第44回 函館五稜郭病院がんサージカルカンサースタディ *開催延期 「第44回がんサージカルカンサースタディ～専門チームから取組報告」2022年4月19日開催 (地域がん診療連携拠点病院 函館五稜郭病院主催)	2件 (延期1件)
	「七飯町 市民後見セミナー～市民後見人とは？市民後見人に期待される役割について～ (七飯町成年後見制度利用促進事業)」 (七飯町役場 民生部福祉課 地域包括支援係)	
5月	第65回 北海道医療ソーシャルワーク学会 「ソーシャルワークに愛を込めて～すべての人に健康と福祉を～」2022年7月9日開催 (北海道医療ソーシャルワーカー協会)	1件
6月	第44回 函館五稜郭病院がんサージカルカンサースタディ 「第44回がんサージカルカンサースタディ～専門チームから取組報告」2022年7月26日開催 (地域がん診療連携拠点病院 函館五稜郭病院主催)	1件
7月		0件
8月	「令和4年度『法人後見実施のための研修会』」 2022年9月5日開催 (函館市社会福祉協議会 函館市成年後見センター主催)	2件
	「第10回 全国ID-Link研究会 in 函館」2022年10月15日開催	
9月	「令和4年度 厚生労働省委託事業 『E-FIELD Home版』 人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業研修」 2022年11月13日開催 (筑波大学主催)	2件
	「2022年度 専門研修 ソーシャルワーカーの物語を紡ごう～支援を通して 当事者とかわかり、生活者として共に高めあう～」 2022年10月23日開催 (北海道精神保健福祉士協会)	
10月	「地域包括ケアシステムに資する医療・介護連携の効率的な情報共有の 仕組み構築に向けて」 2022年10月28日開催 (一般社団法人北海道総合研究調査会主催)	4件
	「第53回 定例会 知っていますか？なまら凄いよ！道南の在宅ケア」 2022年10月28日開催 (道南在宅ケア研究会)	
	「老いても若くても認知症と共に生きる」 2022年10月23日開催 (NPO法人北海道若年認知症の人と家族の会)	
	「認知症の専門医が教える！脳の老化を止めれば歯を守りなさい！」 2022年11月19日開催 (三師会合同講演会)	
11月	「第278回 市立函館病院 月例医学研究会」 2022年11月25日開催	3件
	「第279回 市立函館病院 月例医学研究会」 2022年12月2日開催	
	「第280回 市立函館病院 月例医学研究会」 2022年12月15日開催	

12月	「本当のものがたりのはなし」  2022年12月16日開催 (ならていふ函館主催)	1件
1月	SST初級研修会in函館  2023年2月11日・12日開催 (SST普及協会北海道支部主催)	4件
	令和4年度 南渡島地域看護職員研修  2023年3月11日開催 (渡島保健所主催)	
	令和4年度 成年後見セミナー  2023年3月3日開催 (函館市社会福祉協議会 函館市成年後見センター主催)	
	南渡島地域包括緩和ケアネットワーク第16回定例会 地域における緩和ケア コンサルテーション体制の構築  2023年2月20日開催 (南渡島地域包括緩和ケアネットワーク)	
2月	精神疾患を抱える方の家族のための 第2回家族交流 ネットワーク学習会  2023年3月11日開催 (北海道精神保健福祉士協会道南ブロック)	1件
合計		21件

(その他) ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター 主催・共催研修会4件  
函館市医療・介護連携支援センター 主催・共催研修会4件  
函館市医療・介護連携支援センター、ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催 1件

○協議事項

1, 令和5年度 多職種連携研修計画（案）

（1） 医療・介護関係者向け研修について（資料5）

○本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会  
在宅医療・高齢者施設従事者版  
E-Field Home 函館開催について

（2） 第8回函館市医療・介護連携多職種研修会（資料5）

○案1, 案2, 案3について

## 令和5年度 多職種連携研修計画（案）

## （1）相互理解の促進

①オープンカンファレンス（年度中に検討）

②研修会等コーディネート

各関係団体へ連絡・確認：6月に確認書類 配布

\*医療・介護各関係団体窓口一覧の内容の確認，更新

## （2）連携強化

①看取り

令和5年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業

本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会 在宅医療・高齢者施設従事者版  
E-Field Home 函館開催

目的：本人の意思を尊重した人生の最終段階における医療・ケアを実現するため、医療機関や在宅医療の場等において、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」（平成30年3月改訂厚生労働省）。（以下、「ガイドライン」という。）に則って、人生の最終段階における医療・ケアに関する意思決定等の際に本人や家族等の相談に乗り、必要に応じて関係者の調整を行う相談員を含む医療・ケアチームの育成をすること、また、医療従事者等にガイドライン及び人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)への理解を深めてもらうことで、人生の最終段階における医療・ケアについて本人の意思が尊重される環境整備に資することを目的とする。

日時：令和5年6月10日（土）9時～17時

場所：函館市民会館

方法：集合開催

形態：講義・グループワーク・個人ワーク

定員：70～80名程度

- 参加資格：1. 函館市・北斗市・七飯町の人生の最終段階における医療・ケアに関する意思決定に携わっている医療福祉従事者（医師・看護師・MSW・ケアマネジャー・施設ケアスタッフ等）
2. 上記の医療福祉従事者は、原則として、研修会受講時点において、人生の最終段階における医療・ケアに携わる者としての経験が3年以上であることが望ましく、研修修了後も引き続き、当該医療・ケアに携わる予定である者であること
3. 研修修了後、本事業に協力し、各医療機関等において「人生の最終段階における本人の意向を尊重した意思決定支援」を実践すること
4. 本事業にかかる調査や研究等に協力すること
5. 本研修会を修了したことについて、厚生労働省及び都道府県に対して、氏名、所属及び連絡先と併せて報告することに同意すること

講 師：川口 篤也 先生（函館稜北病院副院長 総合診療科科長）  
宇都宮 宏子 先生（宇都宮宏子オフィス）  
加藤 忠相 先生（あおいけあ）  
佐々木 淳 先生（医療法人社団 悠翔会）  
古屋 聡 先生（山梨市立牧丘病院）  
山岸 暁美 先生（慶応義塾大学医学部）

## ②看取り or 連携強化 or 看取り&連携強化

### 第8回函館市医療・介護連携多職種研修会

（ほくと・ななえ医療・介護連携支援センター共催）

日 時：令和5年10月21日（土）14時～17時

場 所：国際ホテル

方 法：集合開催

形 態：事例報告，グループワーク

対 象 者：函館市・北斗市・七飯町の医療・介護関連従事者

座 長：函館稜北病院 川口篤也先生

（案1：看取り）

テ ー マ：想いを聞いてますか？点から線につながろう

～看取り，急変時，入退院支援，日常の療養生活 4つの場面で考える～

目 的：1. 想いを聞く支援の実際を知る

2. 想いを聞く支援の実践事例から，多職種連携の必要性を理解する

3. 明日から自職種で何ができるかを考える事ができる

内 容：

#### ○報告・ディスカッション

（案）4つの場面から本人の想いを叶えるための支援について報告

事例報告1：日常の療養生活の場面から

事例報告2：入退院支援の場面から

事例報告3：急変時の場面から

事例報告4：看取りの場面から

OGW：

（案）事例報告をもとに感想を述べ，多職種連携をとるにはどうしたらいいのか

自職種では何ができるか等を話し合い，発表してもらう

（講師の方々への質問も含めて）

講 師：未定

※函館市，北斗市，七飯町で勤務する職員にお願いする

(案2：連携強化)

テ ー マ：在宅・施設療養の可能性を広げるために

- 目 的：1. 4つの場面の支援の実際（変化と課題）を知る  
2. 4つの場面の事例から，多職種連携の必要性を理解する  
3. 明日から自職種で何ができるかを考える事ができる

内 容：

○報告・ディスカッション

(案) 4つの場面からそれぞれの変化と課題の報告

事例報告1：日常の療養支援の場面から

事例報告2：入退院支援の場面から

事例報告3：急変時の場面から

事例報告4：看取りの場面から

OGW：

(案) 事例報告をもとに感想を述べ，多職種連携をとるにはどうしたらいいのか  
自職種では何ができるか等を話し合い，発表してもらう

(講師の方々への質問も含めて)

講 師：未定

※函館市，北斗市，七飯町で勤務する職員にお願いする

(案3：看取り&連携強化)

テ ー マ：「点から線につながろう」

～本人の想いを聞いてますか？連携による地域の変化と今後の課題～

- 目 的：1. 本人の想いを聞く支援の実際を知る  
2. 在宅・施設療養の可能性を広げる  
3. 地域の変化と課題を考える  
4. 4つの場面の事例から，多職種連携の必要性を理解する  
5. 明日から自職種で何ができるかを考える事ができる

内 容：

○報告・ディスカッション

(案) 本人の想いを叶えるための支援と連携による地域の変化と課題の報告

事例報告1：日常の療養生活の場面から

事例報告2：入退院支援の場面から

事例報告3：急変時の場面から

事例報告4：看取りの場面から

OGW：

(案) 事例報告をもとに感想を述べ，多職種連携をとるにはどうしたらいいのか  
自職種では何ができるか等を話し合い，発表してもらう

(講師の方々への質問も含めて)

講 師：未定

※函館市，北斗市，七飯町で勤務する職員にお願いする

### ③入退院支援

「入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」（退院支援分科会主催）

「入退院支援連携強化研修会（サマリー編）」（情報共有ツール作業部会主催）

※各部会・分科会にて開催検討

### ④急変時対応（急変時対応分科会実務者会議主催）

※実務者会議にて検討

## （3）多職種連携の専門性の向上

○函館市における多職種連携への理解の促進

・出張講座メニューの追加・更新及び各関係団体へ周知・案内の継続

## （4）人材育成

○センター主催研修会への見学参加

・市内の医療系・福祉系の教育機関に研修案内・出前講座を継続する

・出前講座メニューの追加・更新及び各教育機関への周知・案内の継続

## 令和4年度 医療関係者向け研修 分析・考察

テーマ：「30分でわかる福祉用具の『あれこれ!』」

- 目的：○介護保険サービスの福祉用具の貸与・販売，住宅改修の仕組みを知る  
○入院中から退院を見据えた生活に関わる各専門職の仕事と役割を知る  
○医療・介護関係者が共通理解を深めることで更なる連携強化を図る

### 【アンケート内の意見】

- ・福祉用具の種類，使い方などについて理解が深まった
- ・退院前に情報共有できる事で在宅生活へスムーズに繋がられるように関わりたい
- ・介護保険を使って，福祉用具のレンタル，住宅改修もできることがわかった
- ・福祉用具の活用で，自分らしい生き方を「あきらめない！」事ができるとわかった
- ・福祉用具の勉強は珍しかったので良かった
- ・福祉用具専門相談員によって様々な提案が考えられると感じた
- ・患者（利用者）さんの体の状態変化により，福祉用具の変更ができる事を知った

### 【分析・考察】

一つ目の目的である「介護保険サービスの福祉用具の貸与・販売，住宅改修の仕組みを知る」については，介護保険を使って福祉用具のレンタル，住宅改修もできることや福祉用具の活用で，自分らしい生き方を「あきらめない！」事ができるとわかった等，研修会参加後の理解が深まったのではないかと考える。

また，二つ目の「入院中から退院を見据えた生活に関わる各専門職の仕事と役割を知る」，三つ目の「医療・介護関係者が共通理解を深めることで更なる連携強化を図る」については，退院前に情報共有できる事で在宅生活へスムーズに繋がられるように関わりたい，入院中に福祉用具をデモ機として貸してもらえるとすることを初めて知った等，患者（利用者）に関わる医療・介護関係者が共通の知識を持つことで更なる連携を強化できるきっかけとなったのではないかと考える。

今後の研修要望は，各種介護サービスの内容と違いを知りたい，ケアマネジャー業務範囲，受診や薬の服用を拒否する場合の対応法が知りたいという要望が多かった。

研修会参加職種の上位を占めるのは，ケアマネジャー，薬剤師，介護職員，セラピスト（リハビリスタッフ）の順に続き看護師となっている。これからも多くの医療関係者に参加してもらえる研修内容を検討していく必要があると思われる。

動画配信の講義は，いつでも参加できる，30分程度の時間がよく，毎月でも配信してほしいという意見もあった。動画配信による研修は，期間内であれば，いつでもどこでも自分の都合の良い時に繰り返し参加できるというメリットがあり，今後も期待されていると思われる。

配信の案内を早めにお願ひしたいという意見もあるため，今後の検討事項として，参加者に配慮し，開催の時期が決まり次第，早めに案内できればと考える。

図1

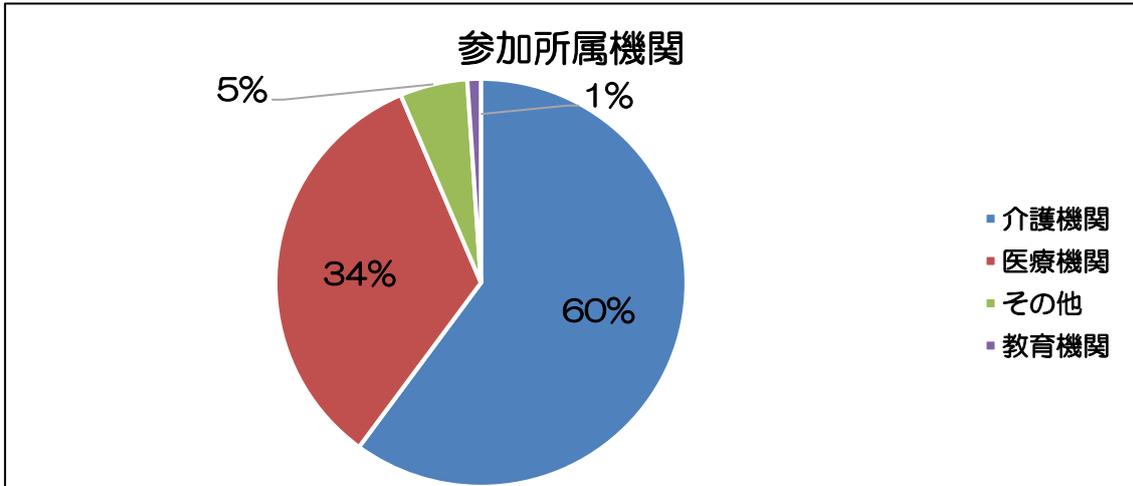


図2

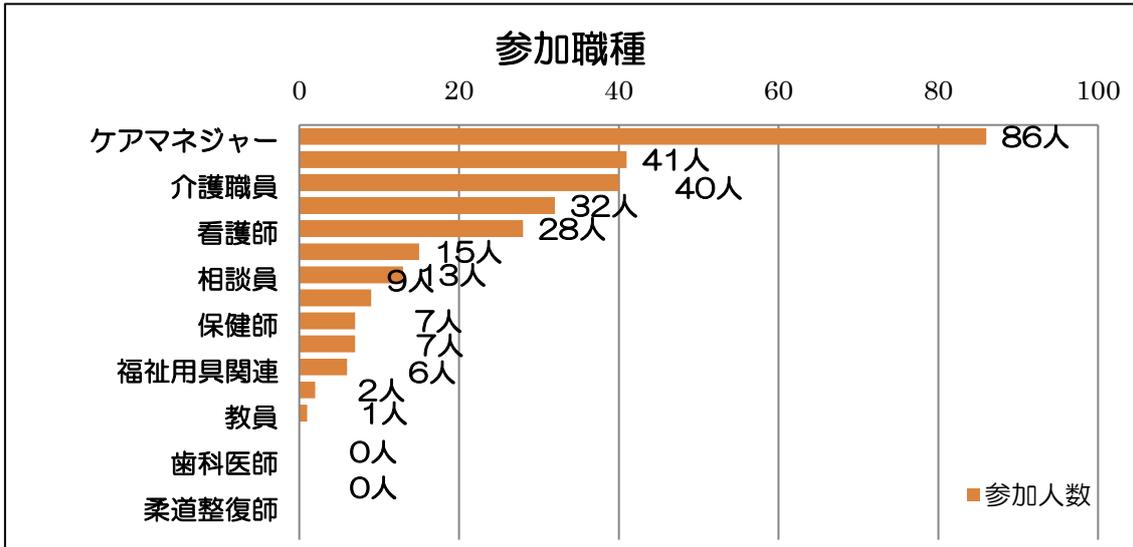
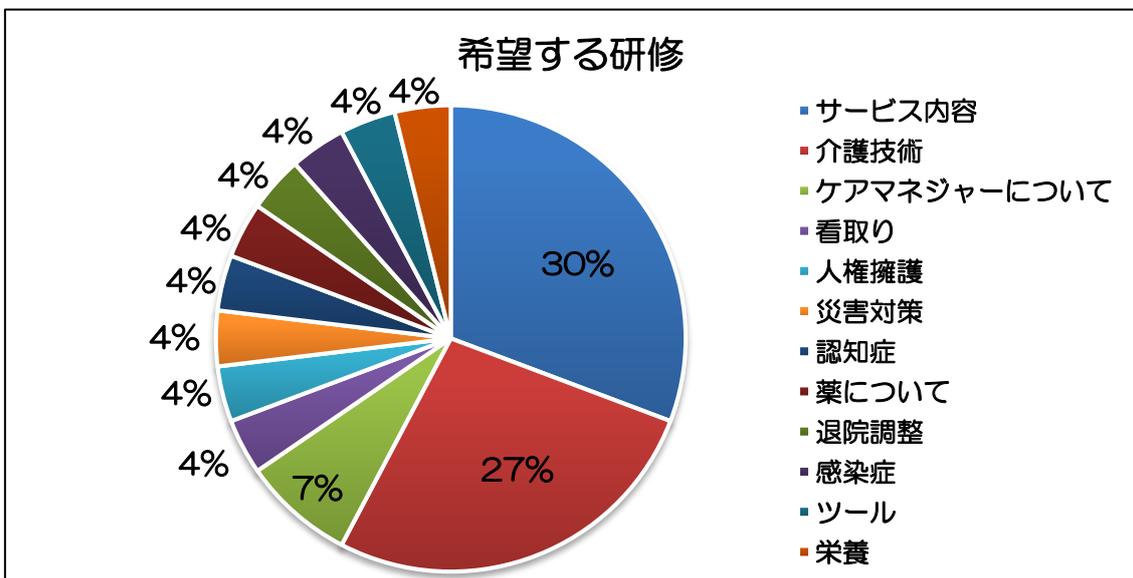


図3



## 令和4年度 介護関係者向け研修 分析・考察

テーマ：「食べるということ～おいしく食べ続けるために～」

目的：○嚥下機能を踏まえた注意点が分かる

○リハビリの実際が分かる

○医療・介護関係者が共通理解を深めることで更なる連携強化を図る

### 【アンケート内の意見】

- ・状態観察の重要性、ケアの仕方など再確認することができ、自分のケアを振り返る機会となった
- ・おいしく食べていただけるよう個々の利用者の状態に合わせて、ケアしていきたい
- ・介助の際に立ちながら・座りながらによる違い、スプーンの一口量の違い、コップの大きさによる飲み込みやすさの違いなど実演に加え大変わかりやすい解説だった
- ・即実践に活かせると思った
- ・なかなか接する機会が無い職種の方の職能がわかり、普段では得られない知見を得ることができた

### 【分析・考察】

一つ目の目的である「嚥下を踏まえた注意点が分かる」については、食べる、飲むなどで困っている話を患者さんから聞いたときにはアドバイスしたいと思う、モデルを使って再現することでわかりやすく、誤嚥についての理解が深まった、改めて食事介護時の注意事項がわかった等、安全においしく食べ続け、食べるということは楽しい時間であり、生きがいの一つであること、単なる栄養補給ではなく、味わうことを考えるという事を意識していきたい、コップやスプーンの大きさを変えること、声掛けのタイミングで咽せないように飲みやすく、食べやすくすることができることを知った等、嚥下機能を踏まえた注意点がわかったのではないかと考える。

二つ目の「リハビリの実際が分かる」、三つ目の「医療・介護関係者が共通理解を深めることで更なる連携強化を図る」については、言語聴覚士の講師による具体的でわかりやすい解説により、新たな知識も加わり明日からの介護現場で活かせるとの反応が多かった。

今後の希望する研修内容としては、認知症のある人へのコミュニケーションや対応法、薬の効果についてや聴覚・視覚・精神障がいに関することへの理解を深めたい、というように理学療法士や作業療法士による研修を希望する声が寄せられた。

介護関係者の希望する内容は、疾患や障がいを知り、処方薬の知識、対応法、リハビリテーション等といった医療に関する幅広い知識を備えたいということがわかった。

研修参加者は、ケアマネジャー、介護職員、薬剤師、セラピスト（リハビリスタッフ）の順に続いて、保健師、事務員の参加となっている。

介護関係者向けの研修として開催しており、参加者の多くが介護関係者であるという点において、介護関係者が医療に関する理解を深めるという、研修の目的に沿った取り組みができているのではないかと考える。

図1

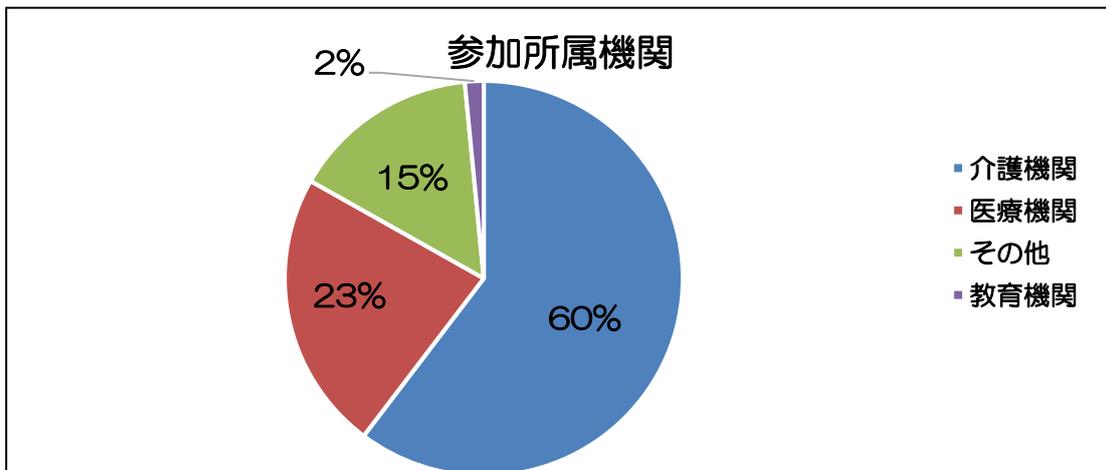


図2

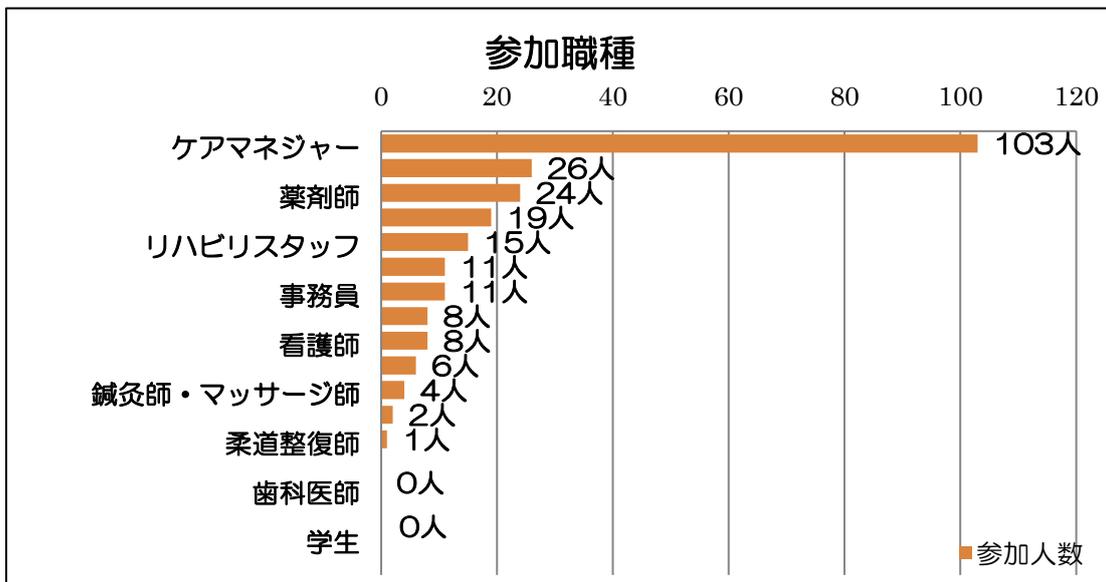
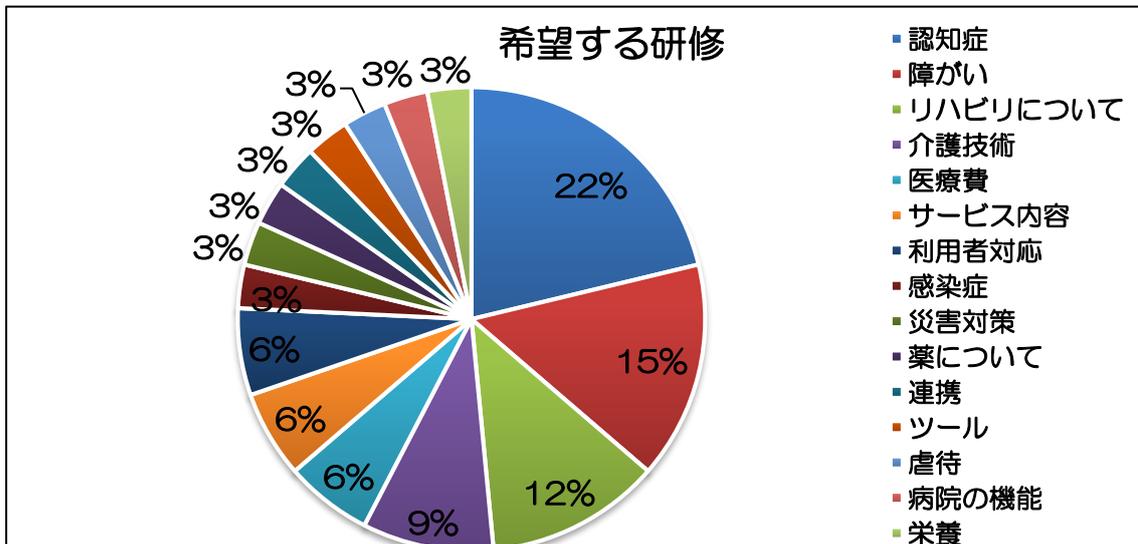


図3



方 法：ウェブ開催 オープンカンファレンス形式

テーマ：8050問題の事例を通じ、多職種連携の必要性を考える

～知ろう！気づこう！繋がろう！！～

目 的：8050問題の事例を通じ、多職種連携の必要性を理解し、医療と介護と福祉の連携と協働を強化する

目 標：・8050問題の実際を知る

・8050問題の事例から、多職種連携の必要性を理解する

・明日から自職種で何ができるかを考える事ができる

### 【アンケート内の意見】

- ・8050 問題は、多くの介護・医療従事者にとっての大きな壁である為、今回の事例は大変勉強になった。
- ・8050 問題の研修に初めて参加させていただいた。このような困難ケースは増加傾向にある為、自分の事業所のみならず、他ケースの事例を聞ける事ができ、とても参考になった。多職種連携の大事さを再実感した。
- ・多職種が関わる事例だったので、自分の知らない障害の知識も得ることができてよかった。また、新しい包括の体制を確認できた。
- ・日常的に感じている問題だった。普段から支援者となりうる関係者と顔の見える関係性や地域をつなげていくということが大切だと感じた。
- ・ZOOM だったが、みんなそれぞれの意見をたくさん聞いた。会場だと数人の発言で終了していたのが、チャットを使うとたくさんの意見を聞いて非常に良かった。

### 【分析・考察】

目標にある「8050 問題の実際を知る」、「8050 問題の事例から、多職種連携の必要性を理解する」、「明日から自職種で何ができるかを考える事ができる」については、上記の意見等にもある通り、達成できたのではないかと考える。

開催方法は、集合開催が困難な状況となり、段階を踏まえて、最終的には関係者のみ会場に集合し、参加者は ZOOM となったが、チャットを用いて、さまざまな感想や意見、質問等を入力しながら参加していた。

アンケートの中には、集合開催のグループワークで意見を述べにくい場合もあるが、ZOOM での参加となると自分の意見を述べやすいという内容もあった。

今後希望する研修は、さまざまな事例を通じ、多職種でグループワークや意見交換ができ、多職種の連携や強化が図られる内容を求められていると考える。

図1 【参加者の職種】

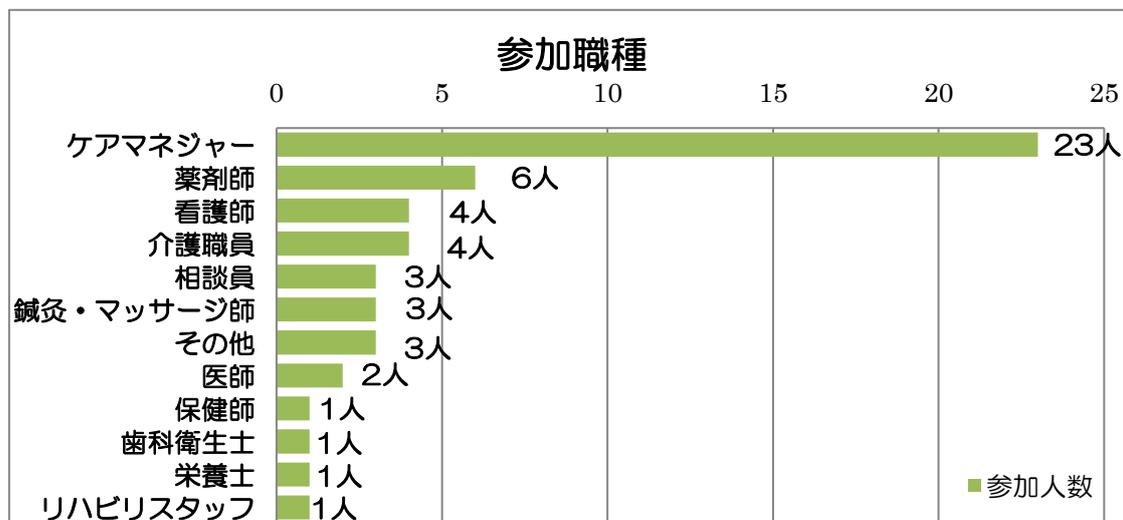


図2 【研修テーマへの意見】

よかった	52人	(100%)
どちらともいえない	0	(0%)
よくなかった	0	(0%)

図3 【希望する研修】

退院時の医療と介護の連携	3件
身寄りのない人が安心して医療・介護が受けられるための事例	3件
精神疾患がある利用者の事例	2件
ヤングケアラー	2件
虐待ケースの事例検討	1件
生活保護担当課のケースワーカーが行っている支援内容や課題	1件
多職種の連携事例に関する研修	1件
在宅支援, 施設支援に共通する内容	1件
オープンカンファレンス形式	1件
在宅での服薬管理, 残薬の対応	1件
地域課題の検討・個別案件への検討	1件
障害者総合支援法に関すること	1件
神経難病がある利用者へのリハビリ	1件